

蒔絵香合「金魚の図」 金魚の存在感を出すため、鱗部分は細かく描き割り、漆を数回塗って盛り上げています。鱗は三種類の金粉と透け漆を用いて水の中で揺らめく様を表現。鱗の鮑貝には赤色を選んで配し、背景の赤漆と全体の色調に統一感をもたせました。



蒔絵香合「紅白梅図」 二種類の金粉を用いて背景に金地を施した上に、白梅と紅梅を蒔絵した香合。白梅にはやや厚めの鮑貝を、紅梅は朱漆固めの金の研ぎ出しで描き、紅白の梅それぞれの異なる表情を出しました。



蒔絵短冊箱「玉蔓」 繊細な玉蔓（首飾り）に見立て、縦横に行き交う曲線に形状や大きさの異なる金粉、銀粉、鮑貝、金属板などを配して宝石の煌めきを表現しました。蒔絵には珍しい抽象模様です。



## 鈴木里穂

2003年京都伝統工芸専門学校卒業。同年下出蒔絵所に入所。2003年京都府伝統産業「京の若手職人」海外派遣事業においてイタリアへ出展参加。2008年「京もの認定工芸士」認定。2014年「伝統工芸士」に認定。

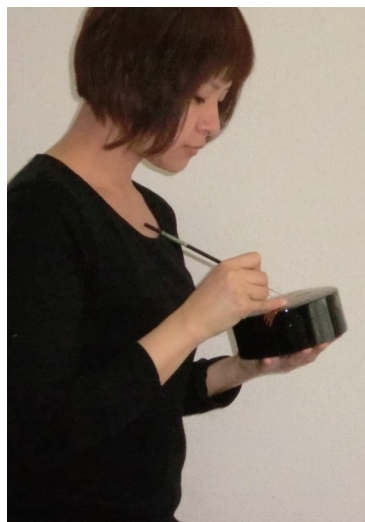
Eメール shape525@yahoo.co.jp

技、道具、材料といずれも多種多様な漆工芸・蒔絵は、日本を代表する工芸の一つ。その貴重な技を後世に誇りをもつて伝えられる担い手となるよう日々精進しています。作品を手にとつていただいた方に、いくら眺めても飽きないと言つていただけるような、テーマ性や世界観を大切にしたいものづくりを目指しています。

蒔絵の技を誇りと共に  
後世に伝えられる職人に

◆京もの認定工芸士とは…

京都の伝統工芸品(京もの)の製造に従事し、特に優れた技術をもつた意欲ある若手職人に京都府知事から授与される称号。



京もの認定工芸士 第17号

すずき  
りほ  
鈴木里穂